

キラツと光る丹波市の「人・もの・いの」のええなあを紹介します。

ええなあ TAMBA - 地域の魅力発信 -

「第5回ディスカバー農山漁村の宝」で特別賞を受賞 有限会社 こやま園



独自の価値をつくる キーワードは「安心と健康」

農林水産省が、農林業などで地域の活性化や新しい事業展開に励む優良企業を表彰する「第5回ディスカバー農山漁村の宝」に、春日地域で「丹波なた豆茶」を生産・販売する有限会社こやま園が選ばれ、特別賞の1つであるプロデュース賞に輝きました。

代表の小山伸洋さんに話を聞きました。

こやま園は、丹波なた豆茶の生産・加工・販売を一貫して行う「6次産業化」に取り組む企業です。今回受賞したプロデュース賞は近畿圏内初めて、持続可能な農業経営のための様々な工夫が評価されたと聞いています。

限られた栽培面積でいかにお客さんに必要とされる商品を作るか、ということを考えて改良を重ねてきました。栄誉ある受賞にプレッシャーを感じますが、丹波なた豆茶を国内外に広げ、世の中に根付かせたいと考えています。

安心・安全・品質にこだわる

私はもともとサラリーマンでしたが、農家の10代目として、「安心して家族の口に入れられるものを販売したい」という自分の中の安全の基準を持っていました。そのため、2000年から有機の野菜と一緒に、丹波なた豆茶の製造・販売を始めました。腎臓の働きを整え、老廃物を排出しやすくするという丹波なた豆茶の効果を多くの人に実感いただいた結果、口コミで評判が広がり、多くの注文を受けるようになりました。現在こやま園では有機JASの認証を取得し、47軒の農家と共に

「丹波なた豆」の栽培を行い、年2回の勉強会で丹波なた豆茶の品質向上と安定供給に取り組んでいます。

「丹波なた豆茶」を国内外に発信

「丹波なた豆」の栽培を行い、年2回の勉強会で丹波なた豆茶の品質向上と安定供給に取り組んでいます。

良質の種子を管理

農業の経営はシンプルで、売れる瞬間にたくさんの人を作っていると、価値が下がってしまいます。そのため、こやま園では他との差別化を図ろうと、大学との共同研究で良い種子を管理して、お客様に効果を実感してもらえる高品質の丹波なた豆茶を製造することにこだわっています。

そして作った商品のブランド力を上げるために、2013年から海外への輸出も始めました。安心・安全で味もおいしい丹波なた豆茶は、現在、アメリカ・アジア・ヨーロッパなど複数の国で販売実績を積み重ねています。

経験を生かし海外進出を応援

今年、これまでの海外進出経験を生かして、これから海外で事業展開したい個人や企業の手助けをするための海外拠点をベトナムに作りました。現地でしか分からることを伝え、生活・商売の両面で応援したいと思っています。海外での活動を通して、市の特産物の知名度向上にも貢献できればいいですね。